

空き家にしない考え方

第1回 空き家が増えて困っていること



定住環境プランナー
中村 周子

こんにちは。

役場で移住・定住の促進に取り組んでいる定住環境プランナーの中村 周子です。

昨年4月に「空き家にしない考え方」という小冊子を全戸配布の広報と一緒に配布してもらいました。

皆様ご覧いただけましたでしょうか。

「空き家にしない考え方」は、集落に空き家を増やさない、今住んでいる家を空き家にしない、という事をご家庭内や集落で話し合っただく時の参考になるように作成しました。

今回から、広報にて「空き家にしない考え方」をさらに噛み砕いて、最新の取組み状況と一緒に皆様にお伝えするために連載をすることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

空き家が増えて困っていること

タイトルは「空き家にしない考え方」なのですが、まず初めに今、現在ある空き家について考えてみたいと思います。

「空き家にしない考え方」の冊子の中では、1~2ページに空き家が増える事で、よく起こる困った事が掲載されています。空き家が倒壊してきそうで怖いとか、獣の棲み家になっていて困っているとか、景観が悪くなるとか、そのようなことが載っています。これらの困っていることは、空き家の近くに住んでいる人にとっては、毎日目に入りますし、喉に引っ掛かった魚の小骨のようにずっと気になっている事柄です。

しかし、空き家の所有者に空き家の手入れや処分をして欲しいと直接掛け合っ解決すればいいかということ、それがなかなかできないところが、空き家問題の悩ましいところです。

空き家は個人の所有物なので口出ししづらいということもあります。関係性が悪くなるのを避けたいという心理も働きます。そういうわけで「どうにかならないかなあ」と思いながらも、どうにもできない状態が続いてしまうのではないかと思います。

集落で空き家の活用に取り組む

今後、各集落で「集落活性化計画」を作成したいと考えています。

この取組みの中で、困っている空き家にどう対処するかも検討し、集落として空き家を減らしていこう、という取組みにしていきたいと考えています。個人で空き家の所有者に掛け合うのではなく、集落のみんなで考えて対策を行う作戦です。

「集落活性化計画」作成のモデルケースとして、上蔵地区で取り組みを始めました。最初の話し合いは集落の忘年会の時に「みんなでこんな事をしたい、と思っていること」について話をしてもらいました。集落活性化計画の作成は、堅苦しい話し合いで作るのではなく、楽しい雰囲気の中で作っていこうと考えています。今後は今回出た項目を実現するために、話し合いを重ねていく予定です。

今回は「集落活性化計画」の詳細についてご紹介します。